

I. 経緯

No.	遺跡名	所在地	原因者	面積	調査期間
1	西ノ原遺跡第11地点	大井町大字苗間字西ノ原 143-4番地	堀井 信義	198m ²	昭和58年 5月23日 ～ 5月27日
2	東久保南遺跡第2地点	〃 亀久保字東久保 546-2番地	内田 喜一	264m ²	5月30日 ～ 6月6日
3	東久保南遺跡第3地点	〃 亀久保字東久保 549-4番地	鈴木 正一	326m ²	6月7日 ～ 7月4日
4	西ノ原遺跡第12地点	〃 苗間字西ノ原 123-3番地	塩野 磯男	330m ²	7月6日 ～ 8月11日
5	西ノ原遺跡第13地点	〃 苗間字西ノ原 114-6番地	塩野 好弘	350m ²	9月13日 ～ 10月18日
6	西ノ原遺跡第14地点	〃 苗間字西ノ原 143番地	堀井 保夫	240m ²	10月24日 ～ 11月7日
7	苗間東久保遺跡第9地点	〃 苗間字東久保 642-1番地	堀井 昌平	660m ²	11月8日 ～ 12月5日

表2 昭和58年度発掘調査一覧表

件、農地の天地返し1件であった。調査総面積は2,368m²である。No.7の苗間東久保遺跡を除いては、すべて市街化調整区域に位置し、分家住宅、住宅の拡張等による宅地造成である。今後、富士見市勝瀬に予定されている東武東上線の新駅設置に関連して、今回調査の3遺跡は、駅への至近距離にあり、ますます開発が進む地域であり、充分な調査計画と保存対策が求められてくることになる。

2. 調査事業の経緯

5月23日からの、西ノ原遺跡第11地点の発掘調査を皮切りに、報告書刊行までの調査事業の経緯は表3のとおりである。

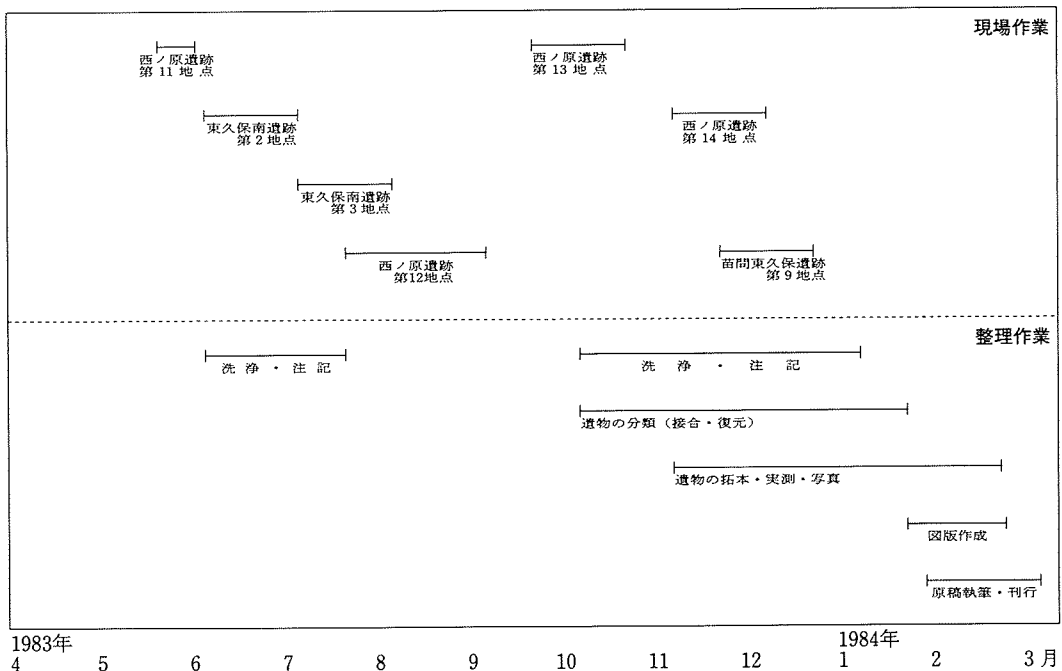
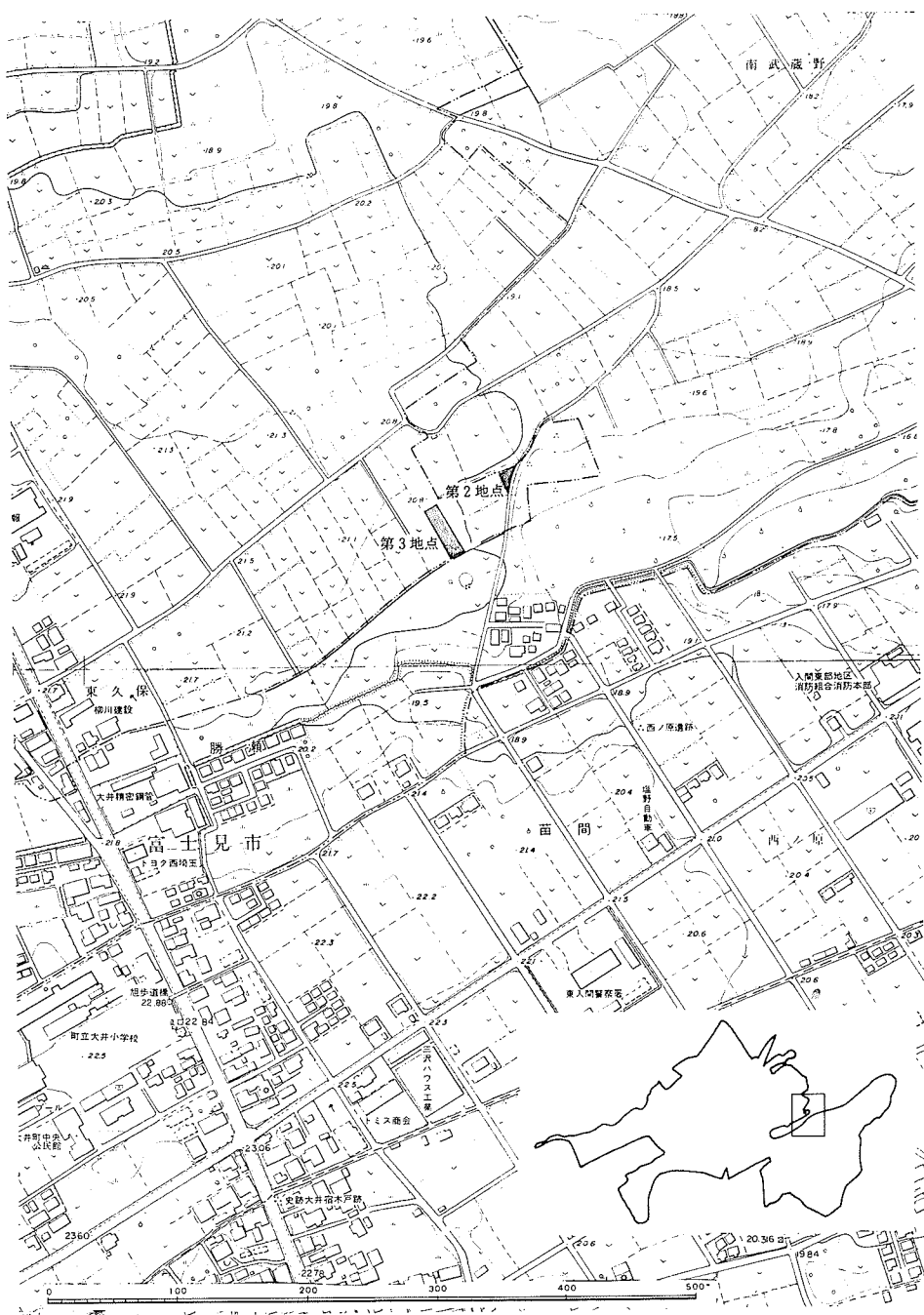


表3 事業の経緯

IV. 東久保南遺跡第2地点

第9図 東久保南遺跡の地形と調査区 ($\frac{1}{5,000}$)

V. 東久保南遺跡第3地点

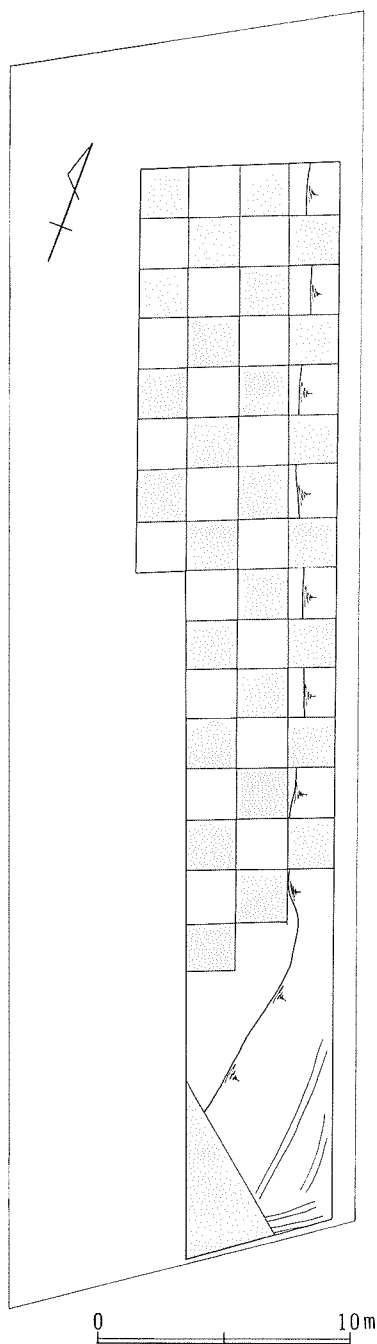
1. 遺跡の立地と環境

IV章でふれたが、周囲は畑地がひろがり富士見市との行政境界線が複雑にいくんでいるところである。今回の調査地点は「オトウカヤマ」の真北にあたり、一昨年調査の第1地点の西隣りの短冊形の土地である。ちょうど標高20mラインが調査区の東脇をとっている。

オトウカヤマが、「埼玉県遺跡地名表」では古墳として呼称されてきたが、一昨年の富士見市教育委員会による墳丘の地形測量と周溝確認のための調査によって、古墳としての積極的資料は得られていない、また富士塚、境塚等の塚と認める具体的な資料も得ることができなかった。第1地点で検出された溝状遺構が古墳の周溝ではないかということも考えられたが覆土、走行方向、遺物の点などからみてもやはり周溝とみなすことはできなかった。

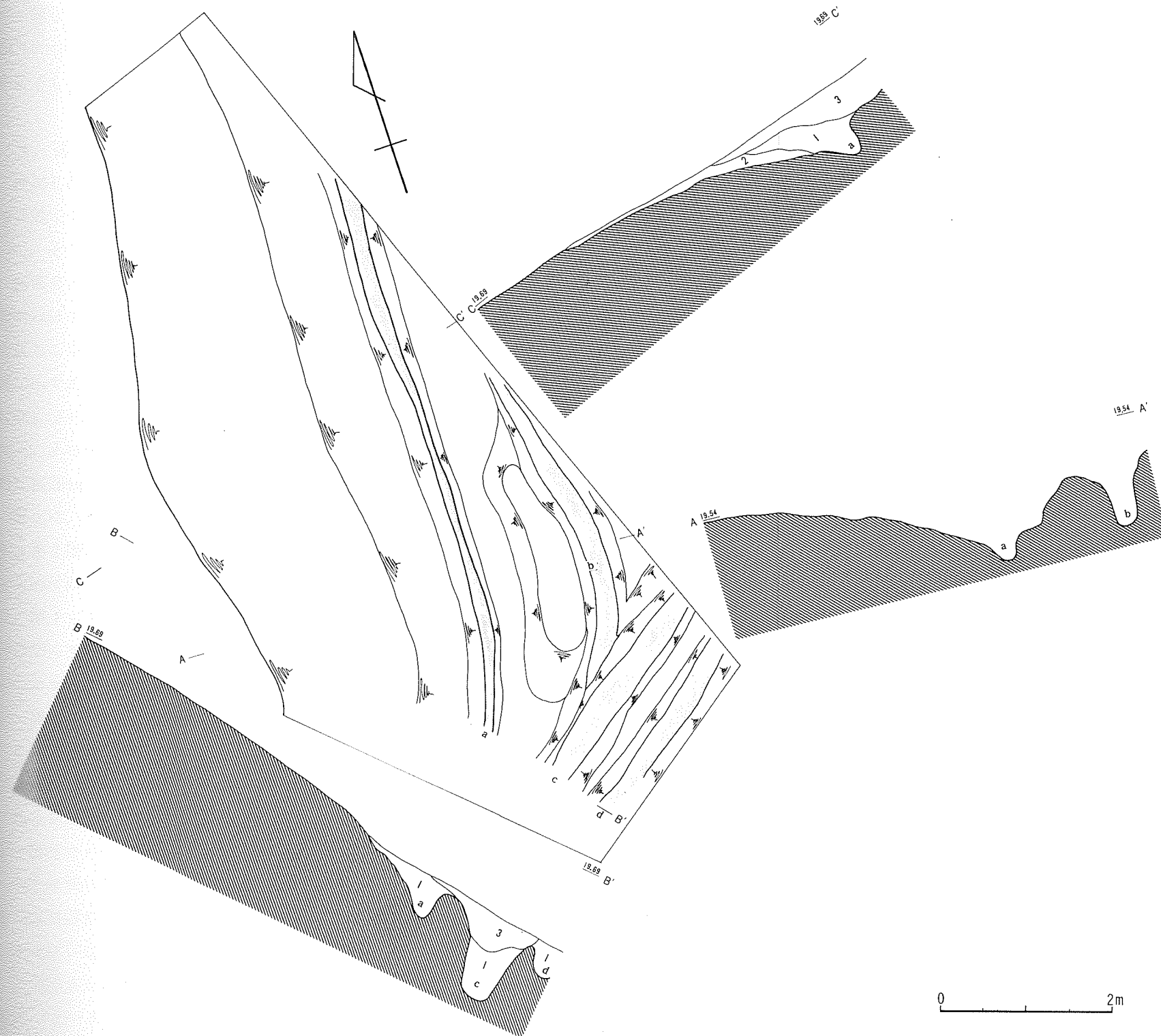
2. 調査の概要と経過

発掘調査は、2 m×2 mのグリッドを設定し6月7日から調査区北側より掘じはじめた。東側には溝状の掘り込みがありローム面がなだらかにおちこんでいる。9日には調査区東側より土地境界にほぼ平行して南北の溝状遺構を確認した。ゴボウのトレンチャーによる攪乱が著しい。グリッド内からは磨耗した縄文土器片が出土。調査区南側で大きな落ちこみを確認したため15日にベルトコンベアーを使用して埋土をあげた。17日に溝内より寛永通宝を出土。第1地



第11図 遺構分布図 ($\frac{1}{300}$)

3. 遺 構

第 12 図 溝状遺構 ($\frac{1}{60}$)

3. 遺 構

点で確認した遺構の傾斜を検出した。縄文土器片に混ざって焼石も溝状遺構より出土した。28日には人頭大の砂岩が数個出土している。29日に土層図、断面図をとり7月4日に調査を終了した。

3. 遺 構

検出した遺構は溝状遺構のみである。調査区内では溝状遺構の東側と南側のたちあがりを確認できなかった。溝状遺構はゆるやかに西から東へ落ちこみ、1本の溝底に達する(a)、そこから東にむけてロームの壁がありすぐまた落ちこむ(b)〈断面A〉。

断面Bでは、南東にむけて北西からゆるやかに傾斜して落ちこみ(a)、そこからロームの壁がほぼ垂直に立ちあがり、やや傾斜をもって(c)の落ちこみ、また垂直に壁が立ちあがって落ちこむ(d)。断面Aでは、溝の開口部の幅は5.2m、aの溝の上幅50cm、溝底幅20cm、深さ30cmである。bの溝は上幅70cm、溝底幅25cm、深さ70cm。断面Bでは、溝の開口部の幅は6.6m。aの溝の上幅60cm、溝底幅20cm、深さ40cm。cの溝は上幅80cm、溝底幅35cm、深さ95cm。dの溝は南側の立ちあがりを確認できなかったため上幅については計測不可能だが、溝底幅20cm、深さ30cmである。いずれも壁はほぼ垂直に立ちあがる。

覆土は、第1層がしまりのない褐色土で、ロームブロックを多少含む。下位は粘性がある。第2層はロームブロックを含むしまりのある褐色土。第3層はロームブロックである。全体的には軟弱でパサパサした土層が主体である。ロームブロックの塊を多く含む第3層は、第1・2層より後の堆積であることは明白。第2層が当初、溝の覆土で、それを第1層が切っている。第3層のロームブロックは、第1層の切り込み以前のロームの地山を掘削したものとみられる。以上の点から検出された溝状遺構の特徴点についてまとめると、

- ① 検出された溝状遺構は、溝底幅約20～30cm、壁がほぼ垂直に立ちあがる箱薬研状を呈し、4本確認された。
- ② 検出された溝状遺構はa、bが平行に走り、c、dがそれぞれ平行に走る。a、bは東側の土地境界に沿うように、c、dは南側のオトウカヤマの墳丘に沿って走る。
- ③ 検出された溝状遺構の覆土は、全般的に軟弱で、人為的に一時期に埋まったと推察される堆積状態である。掘削したロームブロック状になって堆積している。
- ④ 溝状遺構の開口部の西側は、いくつかの弱い段をもちながら非常になだらかに立ち上がっている。断面Aでは3.2m、断面Bでは4.6m、傾斜はそれぞれ25°～28°、10°～20°。

以上の点から検出された溝状遺構は、根切りのための溝とみなされる。4本の溝の新旧関係はa→b→c→dの順に新しくなる。しかしながら、ゆるやかに立ち上がる傾斜面があまりにも長すぎる点が問題として残る。

V. 東久保南遺跡第3地点

4. 遺 物

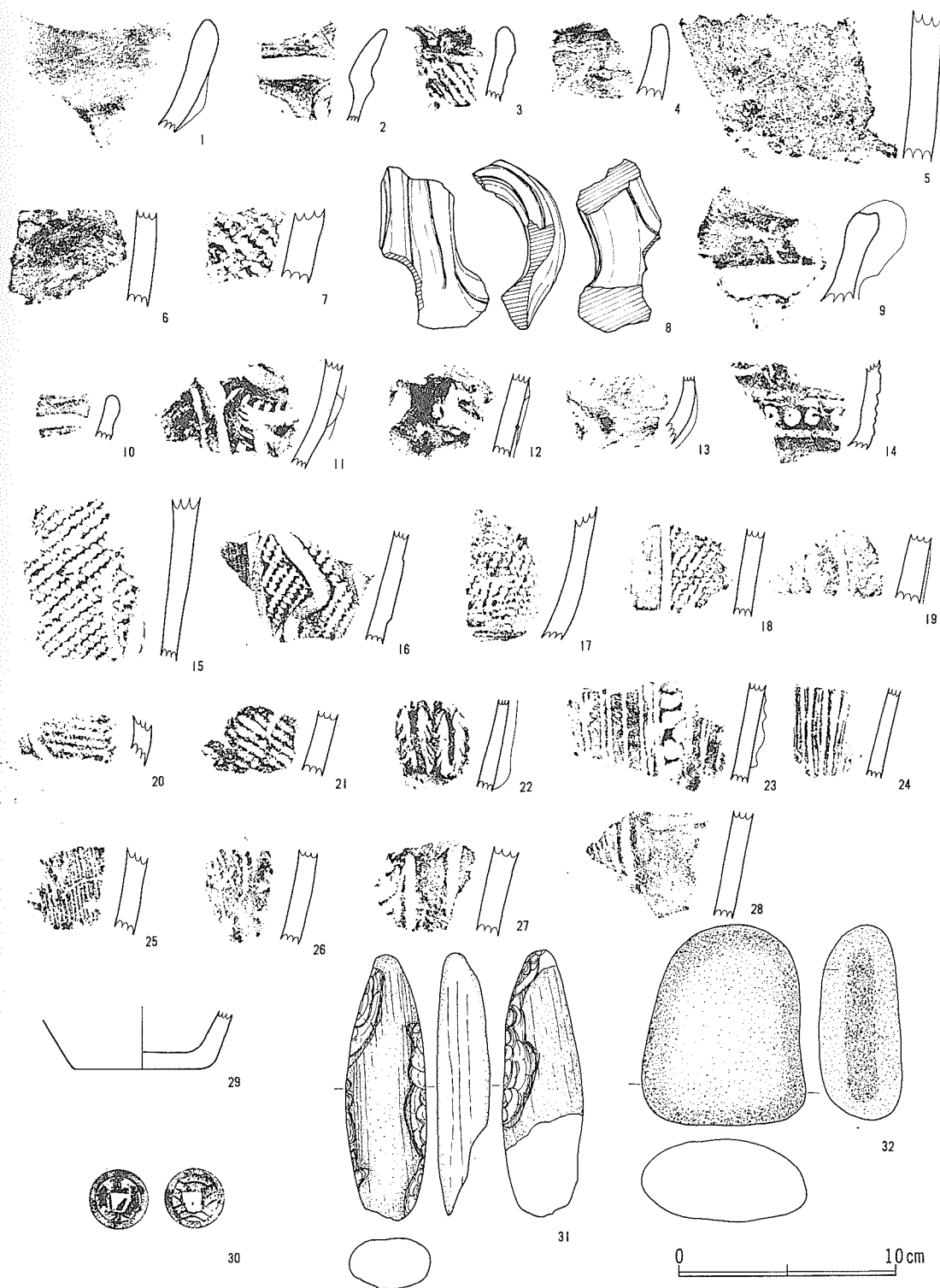
図番	器形・部位	文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第13図 1	深鉢 口縁部	無文帯の口縁部, 下位に隆帯が施されている。	小礫, 砂粒を多く含む黄褐色 不良	溝状遺構流入
2	" "	口唇部下の横位の沈線1条と沈線により楕円区画の文様帯	緻密, 暗褐色 不良	"
3	" "	原体L { $\frac{1}{2}$ } の縄文を縦位に施文。磨耗が著しい。	" 明橙褐色 良好	"
4	" "	無文	砂粒を含む黒褐色 "	"
5	" 胴 部	無文。磨滅している。	白色粒を含む黄褐色 "	"
6	" "	無文。篋状工具による整形が斜位にみられる。	小礫, 砂粒を含む褐色 "	"
7	" "	原体R { $\frac{1}{2}$ } の縄文を横位回転させて施文。	緻密, 灰褐色 良好	"
8	" "	橋状把手	小礫, 砂粒を含む赤褐色 "	"
9	" 口縁部	口唇部を肥厚させて, 幅広の沈線を施している。	緻密, 灰褐色 "	表土出土
10	" "	篋状工具による沈線文様	砂粒を含む褐色 "	"
11	" 頸 部	隆帯による区画文様で, 隆帯上に刻みをもつ。	" 赤褐色 "	"
12	" 胴 部	篋状工具による沈線が施文される。	白色粒を含む橙褐色 "	"
13	" "	原体R { $\frac{1}{2}$ } の縄文を縦位回転させて施文。	緻密, 灰褐色 "	"
14	" "	竹管による円形文を横位に施文。	小礫を含む灰褐色 "	"
15	" "	2条の沈線間は原体R { $\frac{1}{2}$ } の縄文を縦位に施文。	" 褐色 "	"
16	" "	2条の沈線と1本の蛇行沈線を垂下させている。地文は原体R { $\frac{1}{2}$ } の縄文を縦位に施文。	緻密, 明褐色 "	"
17	" "	原体L { $\frac{R}{R} \left\{ \frac{1}{2} \right\}$ } の複節斜縄文を横位回転させて施文。	" 灰褐色 "	"
18	" "	沈線と磨消文。地文は原体R { $\frac{R}{R} \left\{ \frac{1}{2} \right\}$ } の縄文を縦位に施文。	白色粒を含む灰褐色 内, 黄褐色 "	"
19	" "	2本の沈線が垂下する。地文はR { $\frac{1}{2}$ } の縄文を縦位に施文。	小礫を含む赤褐色 "	"
20	" "	原体R { $\frac{1}{2}$ } の縄文を横位に施文。	砂粒を含む "	"
21	" "	原体は1段の縄L { $\frac{1}{2}$ } を横位に施文。	白色粒を含む橙赤褐色 不良	"
22	" "	矢羽根状の刻み文様を施す。	緻密, 赤褐色 良好	"
23	" "	隆帯を貼付し指頭で押しつまみあげている。地文は条線を縦走させている。	砂粒を含む "	"
24 25 26	" "	櫛状工具による条線を施文している。 磨耗が著しい。	24 " 暗褐色 " 25 緻密 黄褐色 " 26 小礫を含む " 不良	"
27 28	" "	沈線と磨消文。	砂粒を含む赤褐色 小礫を含む灰褐色 "	"
29	" 底 部	底径6cm。	" 灰褐色 内, 赤褐色 良好	"
30	寛永通宝	保存は良好, 直径2.75cm, 厚さ0.1cm, 口径0.8cmを測る。		

土師器と須恵器の細片が表土より出土している。

石 器 観 察 表

図 番	種 別	出 土 層 序	石 質	遺存状態	重 量 g	自然面 の有無	備 考
第13図 31	磨製石斧	溝状遺構流入	凝灰岩	刃部欠	159		全体的によく研磨されており, 頭部と側面は敲打されている。
32	磨 石	"	閃緑岩	完 形	376		隅丸台形型。よく研磨されている。

4. 遺物

第 13 図 出土遺物 ($\frac{1}{3}$)

図版 1 西ノ原・東久保南遺跡



西ノ原・東久保南遺跡周辺の航空写真

図版 8 東久保南遺跡第3地点



(1) 遺跡遠景



(2) 発掘作業風景

図版 9 東久保南遺跡第3地点



(1) 発掘作業風景



(2) 溝状遺構

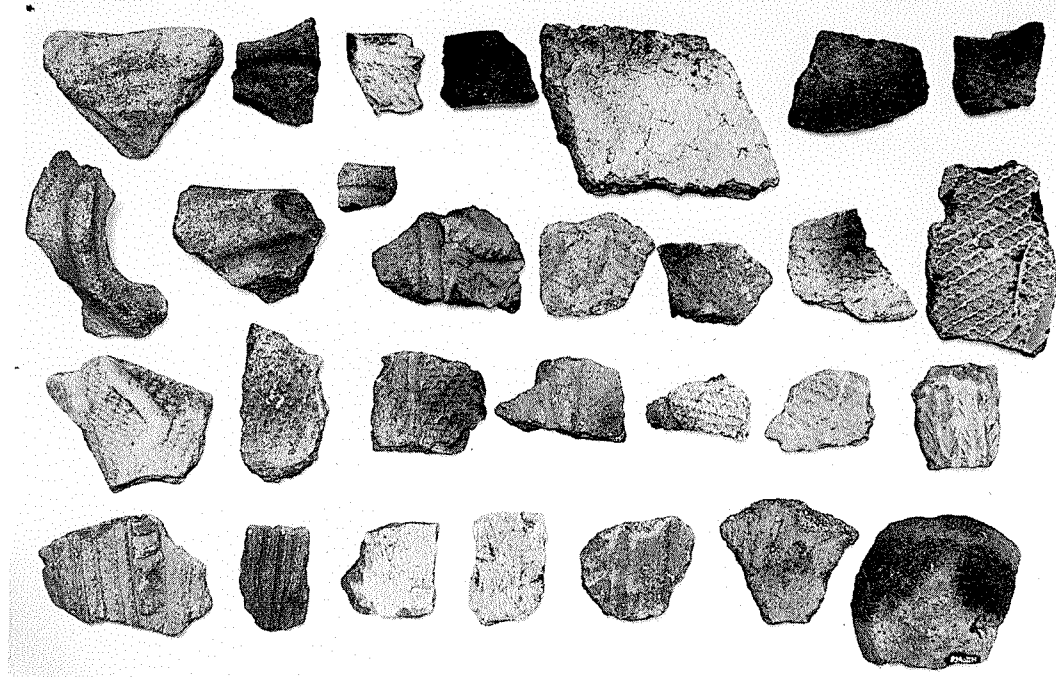


(1) 溝状遺構

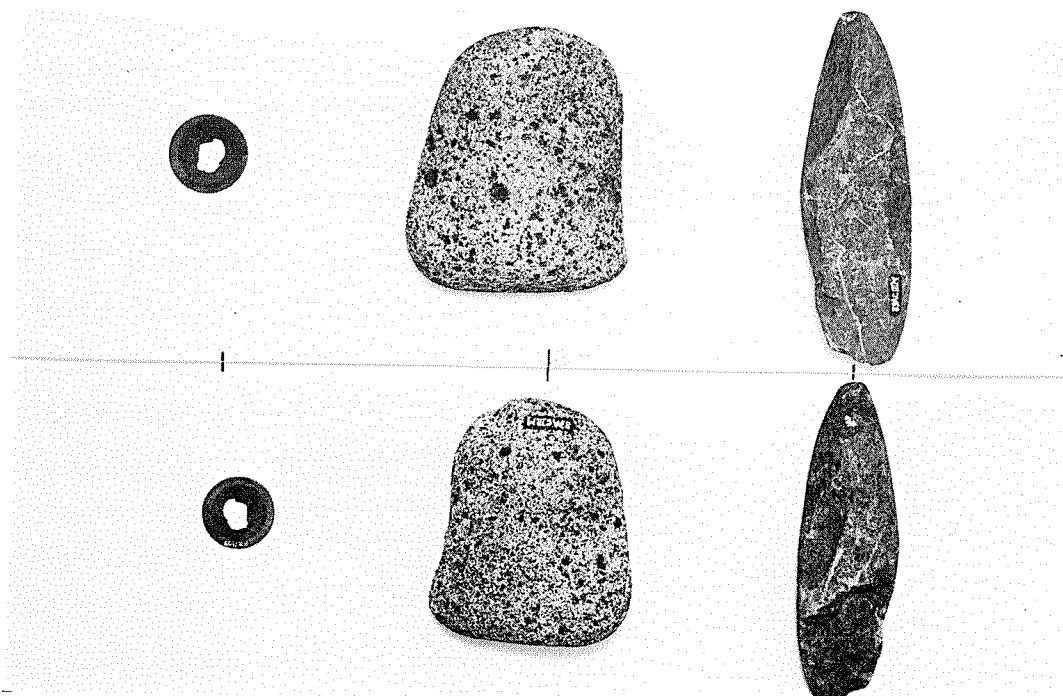


(2) 溝状遺構

図版 11 東久保南遺跡第3地点



(1) 出土遺物



(2) 出土遺物